

# 業務概要 2024



国土交通省

東北地方整備局 高瀬川河川事務所

## 流域の概要

高瀬川流域は、青森県の東南に位置し、三沢市、十和田市をはじめとする2市4町1村で構成されています。高瀬川は、源を青森県上北郡七戸町の八幡岳(標高1,020m)に発し、東流して七戸町付近で作田川等の支川を合わせ小川原湖に至り、砂土路川、土場川等の支川を湖内に集め、太平洋に注ぐ流域面積867km<sup>2</sup>、幹川流路延長64kmの一級河川です。高瀬川河川事務所が管理している直轄管理区間は、高瀬川水系高瀬川の40.1kmです。(直轄管理区間は河口～東北町上野地先)



## 小川原湖の概要

小川原湖は、高瀬川を通じて太平洋とつながる汽水湖であり、63.2km<sup>2</sup>の湖面は全国で11番目(汽水湖の中では5番目)の面積を誇ります。小川原湖の安定した汽水環境は、下流高瀬川を遡上する塩水と上流河川から流入する淡水のバランスにより形成され、多様な生態系を育てています。



### 小川原湖のデータ

●湖面積	63.2km <sup>2</sup>
●周囲延長	67.4km
●湖容量	714百万m <sup>3</sup>
●平均水深	約11m
●最大水深	約25m



## 海跡湖である小川原湖



### ●昔、小川原湖は海でした

小川原湖は今から約三千年前に、入江であった部分が、海面低下と、湾口の砂丘が発達したことにより形成された「海跡湖」です。かつて海であった小川原湖周辺の貝塚からは、ホタテの貝殻などが多数発見されており、太古より人々の暮らしを支えていたことがわかります。

### ●なぜ小川原湖と呼ぶようになったのか？

アイヌ語で言われる「廻り回る」という意味の「オカラ」「オカリ」「オカルル」から「オカラ」となり、その後「小川原」「小河原」の文字を当てられ小川原湖と呼ばれたと言われています。

【回る=廻る】・・・働く、自由になる、行き渡る、利息が生まれる、利益になるなどの意味があります。

## 小川原湖の周辺環境

### 《小川原湖の漁業》

小川原湖は、シジミ、シラウオ、ワカサギなどの内水面漁業が盛んで、安定した微汽水環境が豊富な水産資源となって地域の経済を支えています。青森県の内水面漁業漁獲量は、シラウオ、ワカサギは全国第1位、シジミは第3位。全魚種合計では3位の漁獲量です。

(R4「漁業・養殖業生産統計」(農林水産省)より)



シジミ

シラウオ

ワカサギ

モクスガニ

天然ウナギ

### 《豊かな自然環境》

小川原湖は汽水・淡水の動植物が生息・生育する多様な生態系を有しています。小川原湖周辺の豊かな自然環境を保全するため、仏沼が「ラムサール条約登録湿地」、「国指定仏沼鳥獣保護区(希少鳥獣生息地)」に指定されている他、小川原湖沼群が「日本の重要湿地500」に、小川原湖畔の野鳥が「残したい“日本の音風景100選”」に選ばれています。

小川原湖や北方の市柳沼や田面木沼は、日本有数のカンムリカイツブリ繁殖地であり、仏沼は国内でも最大のオオセッカの繁殖地となっています。



カンムリカイツブリ



オオセッカ



オジロワシ



セイタカシギ

### 《観光レクリエーション》

小川原湖周辺には、湖水浴場やキャンプ場をはじめ、公園、道の駅、温水プールなどが整備されており、海水浴、キャンプ、花火大会、カヌー、ワカサギ釣りなどを楽しむことができます。



湖水浴



キャンプ



花火大会



カヌー



ワカサギ釣り

# 治水事業の沿革

昭和7年(1932)

当初計画策定(青森県)  
高瀬川(七戸川)の河川改修を実施(S7~S12)



## 昭和33年9月26日(台風22号)

- 流域平均2日雨量 210mm
- 湖水位 TP+2.79m(沼崎)
- 死者3人 負傷者17人
- 住家損壊流出151戸 ●床上床下浸水2,801戸
- 浸水範囲面積3,150ha

高瀬川放水路開削(S37~S52)  
防衛施設庁の障害防止対策工事

昭和37年(1962)

高瀬川水系全体計画策定(青森県)

昭和44年(1969)

新全国総合開発計画に小川原湖周辺の開発構想を明記(5月)

直轄事業に着手

昭和47年(1972)

高瀬川一級河川指定(4月)  
「むつ小川原開発第1次総合開発計画」を閣議了解(9月)

昭和52年(1977)

「むつ小川原開発第2次総合開発計画」を閣議了解(8月)

昭和53年(1978)

高瀬川水系工事実施基本計画決定(3月)  
高瀬川総合開発工事事務所発足(4月)  
小川原湖総合開発事業に関する基本計画告示(12月)



## 平成2年10月26日(低気圧)

- 流域平均2日雨量 181mm
- 湖水位 TP+1.11m(小川原湖)
- 家屋半壊1戸 ●床上浸水143戸 ●床下浸水96戸
- 浸水範囲面積2,600ha

平成14年(2002)

小川原湖総合開発事業中止を決定(12月)

平成15年(2003)

高瀬川河川事務所に改称(4月)

平成16年(2004)

高瀬川水系河川整備基本方針策定(10月)

平成18年(2006)

高瀬川水系河川整備計画策定(3月)



## 平成18年10月6日(低気圧)

- 流域平均2日雨量 173mm
- 湖水位 TP+1.52m(小川原湖)
- 農地等被害区域55ha ●宅地等被害区域0.6ha
- 床下浸水9戸

平成25年(2013)

河川整備計画で計画した堤防10.6kmが全て完成



## 平成28年8月31日(前線及び台風10号等)

- 流域平均2日雨量 146mm
- 湖水位 TP+1.36m(小川原湖)
- 床下浸水3戸

令和4年(2022)

高瀬川の直轄管理50周年

# ●高瀬川河川事務所の事業

～地域と連携した「川づくり」を目指します。～

## 令和6年度 予算

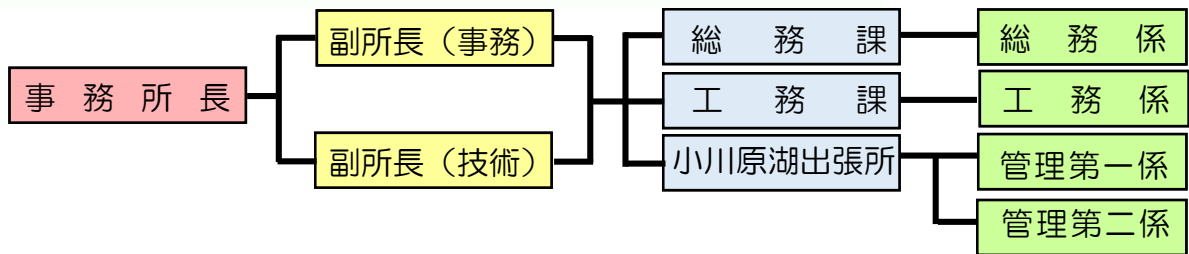
令和6年度は、事業費399百万円(対前年比0.92)の予算をもって、高瀬川の河川特性を踏まえた安全で安心できる社会基盤の形成、小川原湖に代表される自然の恵みと豊かな河川・湖沼環境の維持保全、地域との連携を生かした個性豊かな活力ある地域づくりの支援を目指して事業の進捗を図ります。

※予算額は、本省記者発表の箇所表に記載されている「一般河川改修」「総合水系環境整備」の各事業（業務取扱費を含まない）の合計額を示す。

R6 事業費 399百万円（維持修繕費除く）  
（改修64 環境335）

## 高瀬川河川事務所 概要

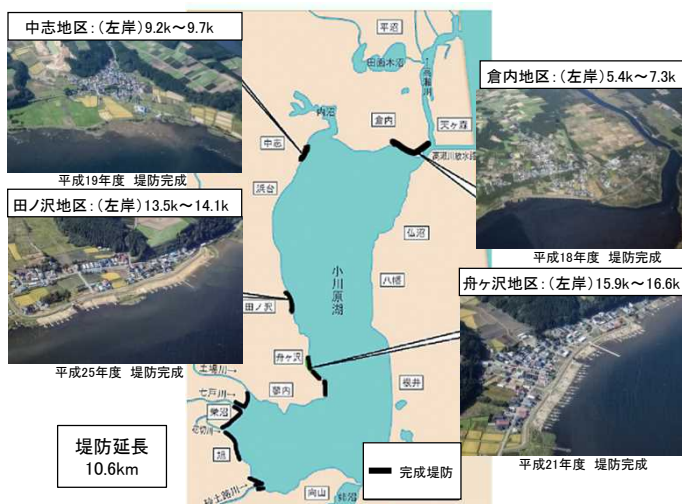
事務所組織：2課1出張所（職員18名 事務8 技術10）



## 河川の整備の実施に関する事項

### 洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する整備

#### ●洪水対策に関する整備の実施箇所



田ノ沢地区堤防



倉内第二排水樋門

中志第一排水樋門

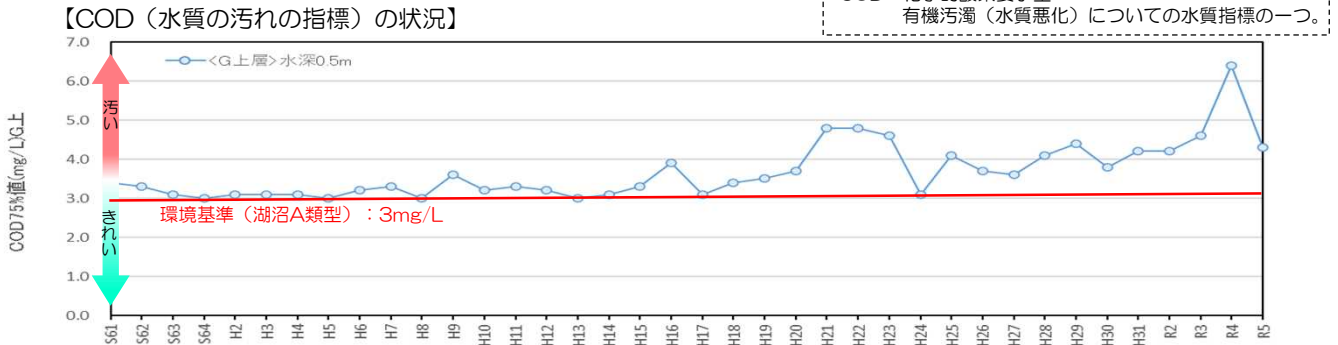


平成25年度までに倉内地区、中志地区、舟ヶ沢地区、田ノ沢地区の堤防（延長10.6km）が完成し、排水樋管9基、水門1基が整備されました。

令和6年度は、津花川排水機場と流川排水機場の遠隔操作化の検討を進めます。

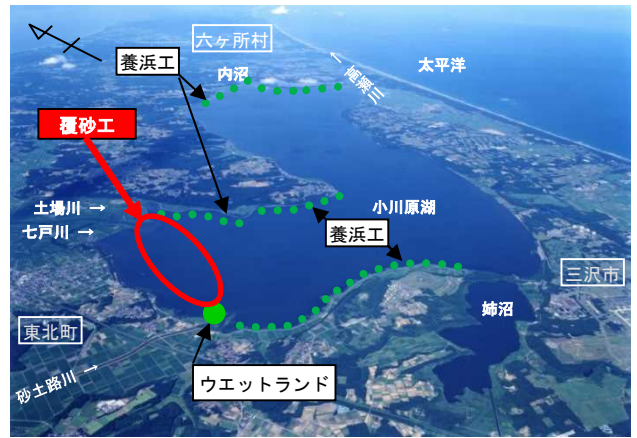
## 河川環境の整備と保全に関する整備

●小川原湖の水質は、平成18年度以降、環境基準値を達成できない状況が続いており、表層（G地点 水深0.5m）の水質も同様の傾向となっています。継続して水環境改善の対策を検討し、実施していきます。



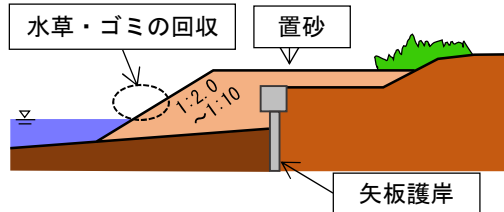
●豊かな自然環境を有し、地域産業を支え、観光資源でもある小川原湖の水環境の保全・改善を図るため、現状調査、水質改善の検討、対策の実施、モニタリング調査を行います。

令和6年度は、底泥の巻き上げ防止や溶出負荷の低減を図るため、覆砂工事を実施します。また、これまでに実施した対策工の効果についてモニタリング調査を行います。



### ○養浜工

矢板護岸等、切り立った湖岸部を置砂によって砂浜に再生します。波浪によって打ち上げられる沈水植物などの枯死体の効率的な回収とシジミ等の生息による水質浄化を期待します。



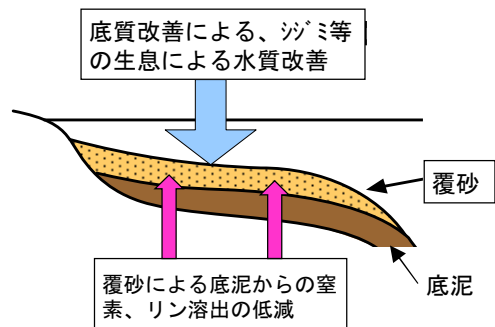
### ○ウェットランド

流入河川の河口部に沈砂池を設けて、湖への流入負荷を低減します。



### ○覆砂

底泥の表面を砂で覆うことにより、底質を改善し、底泥の巻き上げや溶出負荷を低減します。



## 河川の維持管理

高瀬川(小川原湖)の河川管理施設の機能を維持するため、堤防除草、水門・樋門樋管の保守点検、堤防・護岸などの補修、河道の土砂撤去等を実施します。



堤防除草の実施状況



樋門樋管の点検



砂州撤去

## 危機管理等(洪水対応・水質事故対応)

- 水防工法訓練  
水防工法の技術取得・向上のため実施しています。
- 重要水防箇所合同巡視  
洪水の際、水防活動を行う上で特に注意する必要がある「重要水防箇所」について、河川管理者・県・流域市町村・地元水防団等が合同で現地確認しています。
- オイルフェンス設置訓練  
河川への油等の流出事故に備えて、流域市町村や消防などが参加して実施しています。
- 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)  
台風や豪雨、地震や津波など自然災害により被害が発生した場合に、いち早く被災地に向き自治体への応援支援を行います。



水防工法訓練



重要水防箇所合同巡視



オイルフェンス設置訓練



緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)活動状況

## 出前講座(環境学習等)

小川原湖の事業や環境(動植物や水質等)などについて、関心をもって頂くために、出前講座を実施しています。

また、河川において水生生物を指標とした簡易の水質調査も実施しています。

※問合せ・申し込みは、高瀬川河川事務所のHPを参照してください。



小学校への出前講座



水生生物調査

- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換します。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進めます。
- また、気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させるために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』を策定しました。

### ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

**雨水貯留機能の拡大** 集水域  
 [国・市、企業、住民]  
 雨水貯留浸透施設の整備、ため池等の治水利用

**流水の貯留** 河川区域  
 [国・県・市・利水者]  
 治水ダムの建設・再生、利水ダム等において貯留水を事前に放流し洪水調節に活用  
 [国・県・市]  
 土地利用と一体となった遊水機能の向上

**持続可能な河道の流下能力の維持・向上**  
 [国・県・市]  
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、雨水排水施設等の整備

**氾濫水を減らす**  
 [国・県]  
 「粘り強い堤防」を目指した堤防強化等

### ② 被害対象を減少させるための対策

**リスクの低いエリアへ誘導／住まい方の工夫**  
 [国・市、企業、住民]  
 土地利用規制、誘導、移転促進、不動産取引時の水害リスク情報提供、金融による誘導の検討

**浸水範囲を減らす**  
 [国・県・市]  
 二線堤の整備、自然堤防の保全



### ③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

**土地のリスク情報の充実** 氾濫域  
 [国・県]  
 水害リスク情報の空白地帯解消、多段階水害リスク情報を発信

**避難体制を強化する**  
 [国・県・市]  
 長期予測の技術開発、リアルタイム浸水・決壊把握

**経済被害の最小化**  
 [企業、住民]  
 工場や建築物の浸水対策、BCPの策定

**住まい方の工夫**  
 [企業、住民]  
 不動産取引時の水害リスク情報提供、金融商品を通じた浸水対策の促進

**被災自治体の支援体制充実**  
 [国・企業]  
 官民連携によるTEC-FORCEの体制強化

**氾濫水を早く排除する**  
 [国・県・市等]  
 排水門等の整備、排水強化

## 高瀬川水系流域治水協議会

高瀬川流域治水協議会は、令和元年東日本台風をはじめとした近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、高瀬川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するため令和2年9月18日に設立しました。



### 《協議会構成員》

十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、東北町、六ヶ所村、農林水産省、東北森林管理局、森林整備センター、青森地方気象台、青森県、国土交通省

第7回 高瀬川流域治水協議会（令和6年2月20日）

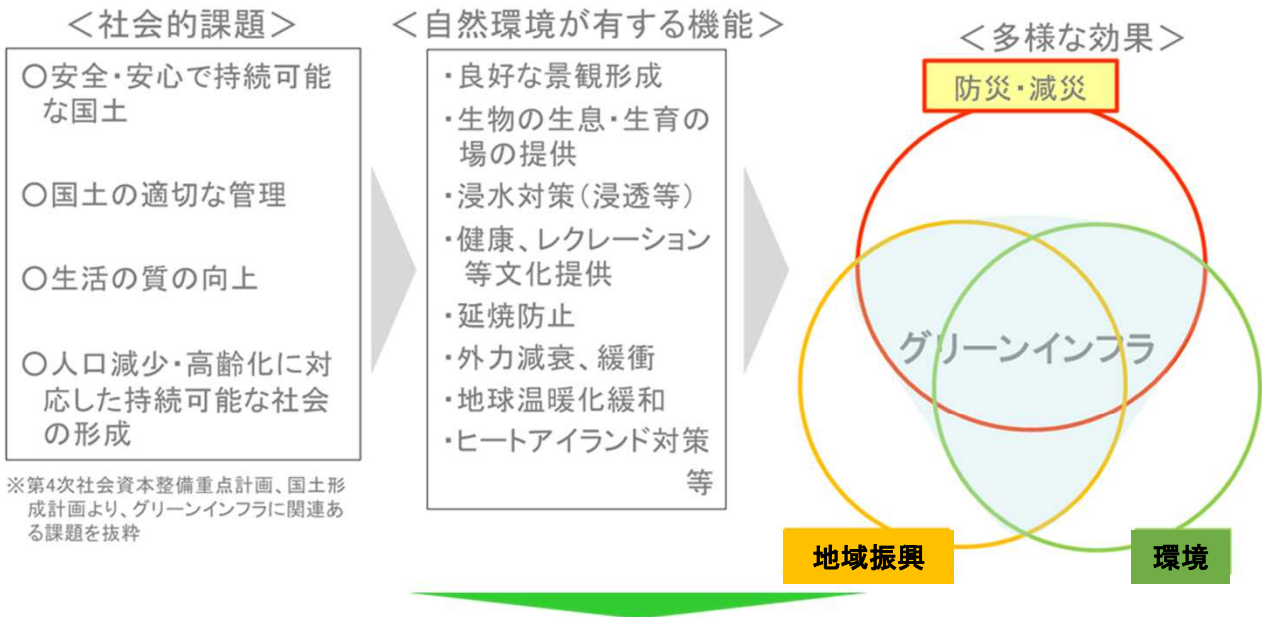
高瀬川流域治水プロジェクト2.0は  
 高瀬川河川事務所HPのバナーをクリック





# 高瀬川水系流域治水プロジェクト2.0×グリーンインフラ ～多様な動植物の生息環境を「まもる」ため水環境保全対策の推進～

- 豊かな自然と水産資源に恵まれた小川原湖には、「ラムサール条約湿地」に登録された“仏沼”も隣接し、周辺一帯が動植物の貴重な生息・生育の場となっています。この小川原湖一帯の豊かな自然環境を後世に残し・伝えていく必要があります。
- 小川原湖において、養浜、覆砂、ウエットランド等による水環境の保全を行うことにより、自然が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。



**防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応**

**持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献**

グリーンインフラ例：河川を活用した魅力ある水辺空間・賑わいの創出（かわまちづくり）

自然環境が有する多様な機能を活用

- ・良好な河川空間

魅力ある国土づくりや地域づくり

- ①賑わいの創出
- ②健康的なライフスタイルの提供



グリーンインフラ例：水環境整備（水質改善）

自然環境が有する多様な機能を活用

- ・健全な水環境（水質）

魅力ある国土づくりや地域づくり

- ①漁獲量増加による漁業関係者の所得向上
- ②レクリエーション空間の提供



## カメラ映像・水位等の情報入手先

気象×水害×土砂災害 情報マルチモニタ

パソコン、スマートフォン

<https://www.river.go.jp/portal/?region=80&contents=multi>

川の防災情報サイト

パソコン  
スマートフォン

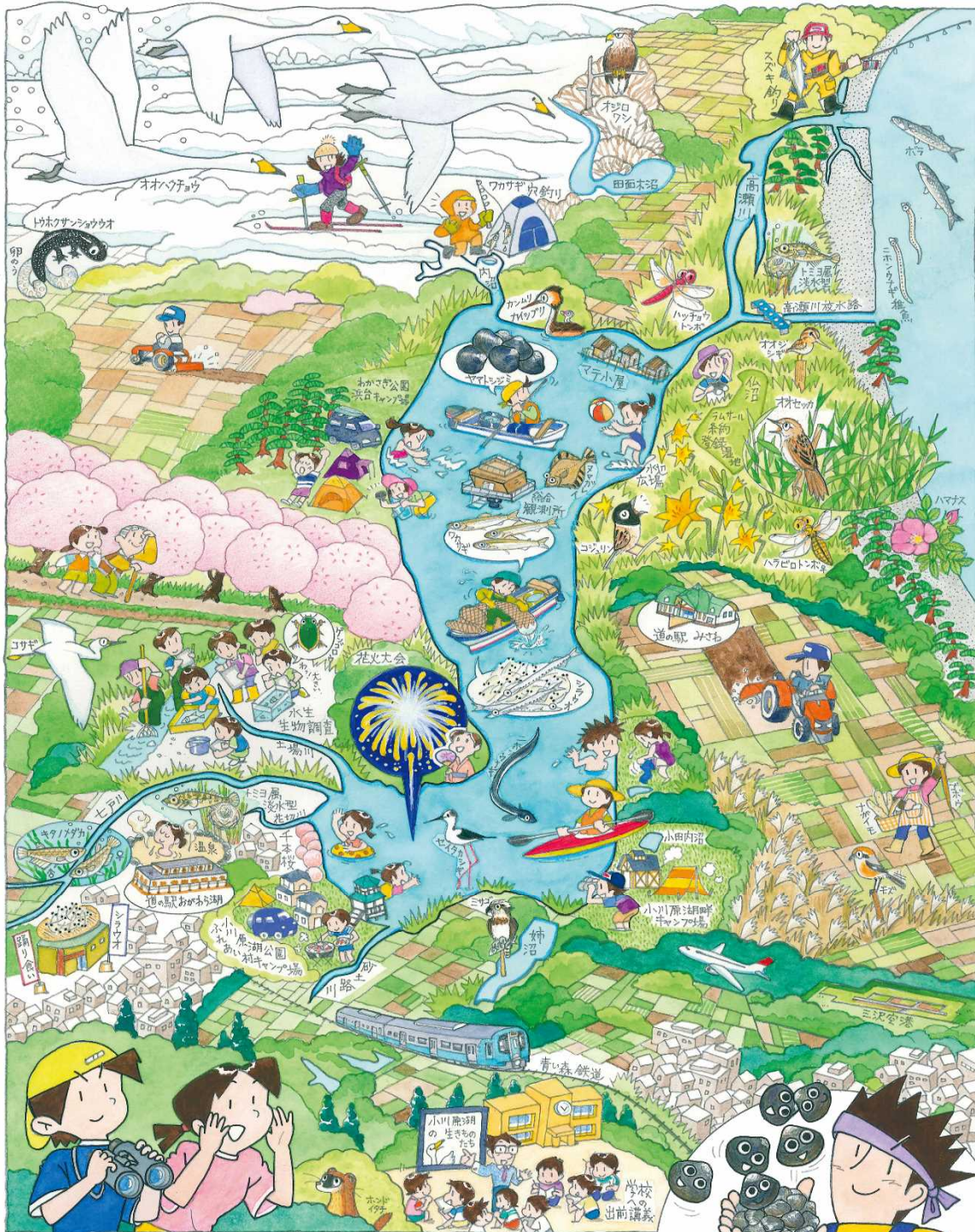
<http://www.river.go.jp/>  
<http://www.river.go.jp/s/>

川の水位情報サイト

パソコン、スマートフォン

<https://k.river.go.jp/>

# 小川原湖周辺観光マップ



国土交通省 東北地方整備局 **高瀬川河川事務所**

〒039-1165 青森県八戸市石堂三丁目7-10 TEL.0178-28-7135 / FAX.0178-20-6472

■高瀬川河川事務所代表(総務課) TEL 0178-28-7135

■小川原湖出張所

〒033-0021 青森県三沢市岡三沢三丁目9-19  
TEL 0176-53-3081 FAX 0176-52-9266



ホームページアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/takase> 電子メールアドレス [thr-takasegawa01@mlit.go.jp](mailto:thr-takasegawa01@mlit.go.jp)  
Xアドレス [https://twitter.com/mlit\\_takase](https://twitter.com/mlit_takase)

高瀬川河川事務所では、ホームページを開設しております。お知らせ、記者発表、小川原湖の概要、流域の写真や防災情報などを掲載していますので、ご覧下さい。また、高瀬川河川事務所や高瀬川・小川原湖に関する意見や要望もあわせて電子メールでお寄せ下さい。